

「ながらスマホ」の危険性について

埼玉県教育委員会

何か別のことをしながらスマートフォンを操作する「ながらスマホ」が原因となった事故がひんぱんに起きています。運転手がスマートフォンを操作しながら車の運転をしていたところ、歩行者をはねてしまった、といったニュースを、みなさんもテレビなどで目にしたことがあるのではないのでしょうか。

「ながらスマホ」はとても危険なものです。「自分なら大丈夫」「ちょっとくらい平気だろう」と考えておこなった「ながらスマホ」が、取り返しのつかない事態をまねいてしまうこともあります。

自分はもちろん、他人を危険な目にあわせることも

みなさんが特に注意なくてはいけませんが、歩行中の「ながらスマホ」です。スマートフォンを操作しながら歩いていると、視野がせまくなり、周りに注意がいなくなります。実際に、歩きながらスマートフォンを操作していた人が、電車のホームから転落したり、踏切内に侵入して電車と接触したりといった事故も起きています。また、通行人とぶつかってトラブルになることもあります。



もうひとつ注意が必要なのが、自転車を運転中の「ながらスマホ」。歩行中の場合と同様、注意力がさんまんになりますし、片手がふさがっているため事故の危険性が高くなり、転倒した場合、受け身をとれずに大きなけがをしてしまうこともあります。

また、歩行者とぶつかってけがをさせるなど、加害者になるケースも少なくありません。



やめましょう、ながらスマホ

歩行中や自転車運転中の「ながらスマホ」は、重大な事故を引き起こしてしまうこともある危険なものです。まずは、そのことをしっかりと頭に入れ、歩行中や自転車運転中にスマートフォンを確認したいときは、止まった状態で、周囲に迷惑のかからない場所でおこなうようにしましょう。